



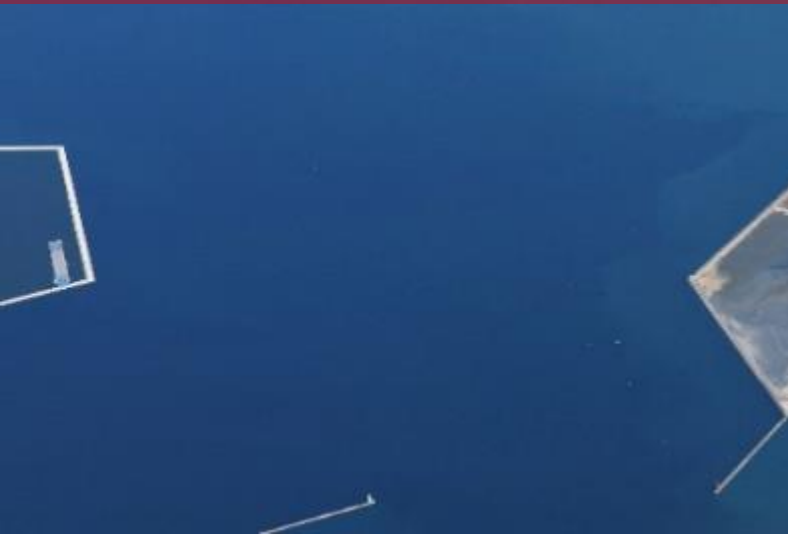
碧南市災害被害想定

令和4年7月20、21日

碧南市防災課



洪水被害想定



洪水被害想定

矢作川 L 2
4 8 時間 6 8 3 mm

0.5m未満の区域
0.5~3.0m未満の区域
3.0~5.0m未満の区域
5.0m以上の区域

5.0~10.0m未満の区域
3.0~5.0m未満の区域
1.0~3.0m未満の区域
0.5~1.0m未満の区域
0.3~0.5m未満の区域
0.3m未満の区域

高浜川 L 2
2 4 時間 7 7 0 mm

浸水深判定

全壊 : 1階天井 (浸水深 2. 5 m)
大規模半壊 : 床上 1 m (1. 5 m)
半壊 : 床上 (0. 5 m)

令和 2 年 7 月 豪雨
熊本 3 4 時間 7 0 0 mm

平屋 0. 5 m 以上、2 階建 3 m 以上
の浸水地域は必ず立ち退き避難

蜷川 L 2
2 4 時間 8 3 6 mm

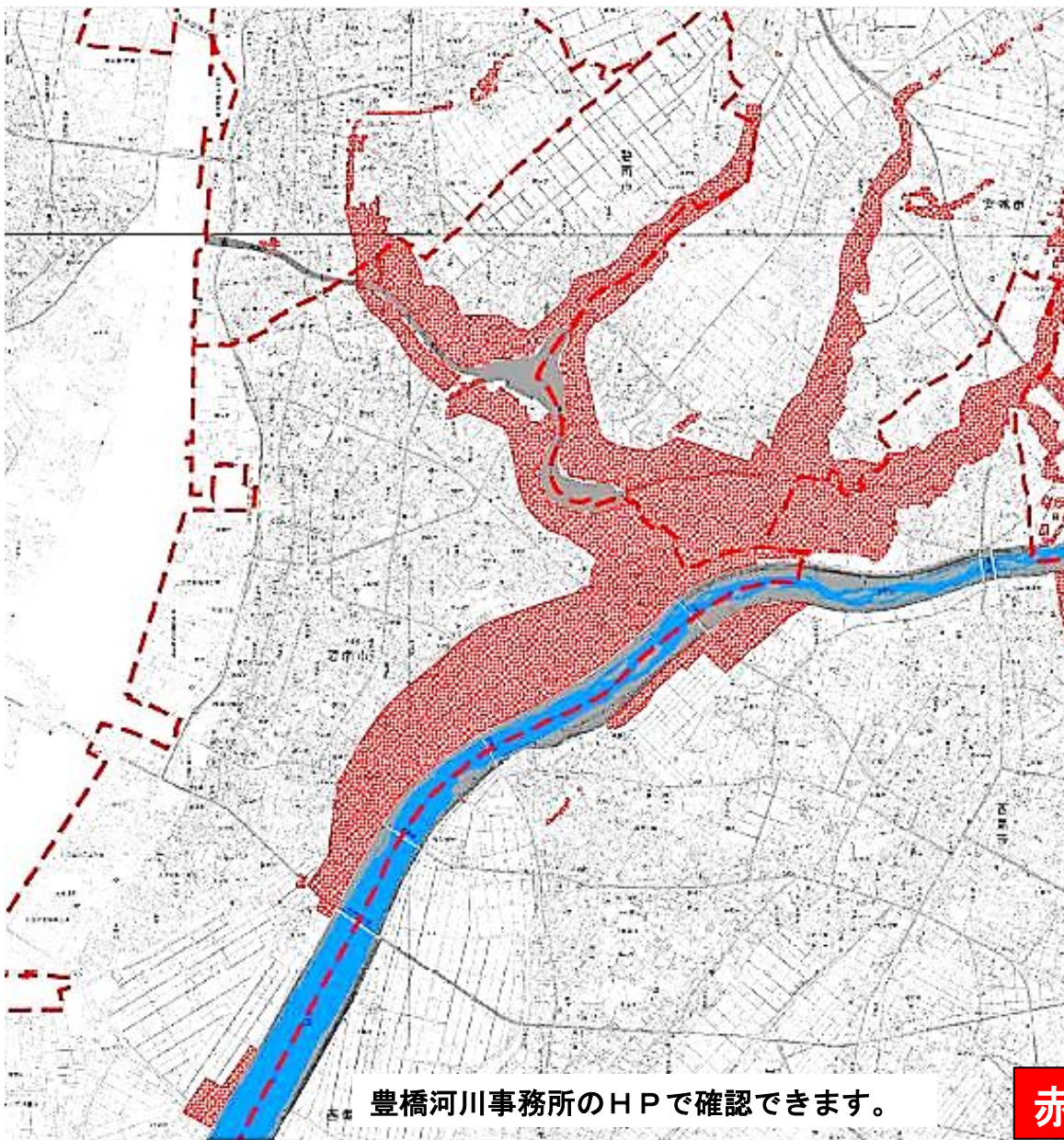
3 m 浸水イメージ

1.0~3.0m未満の区域
0.5~1.0m未満の区域
0.3~0.5m未満の区域
0.3m未満の区域



「マップあいち」で確認できます。

家屋倒壊等氾濫想定区域



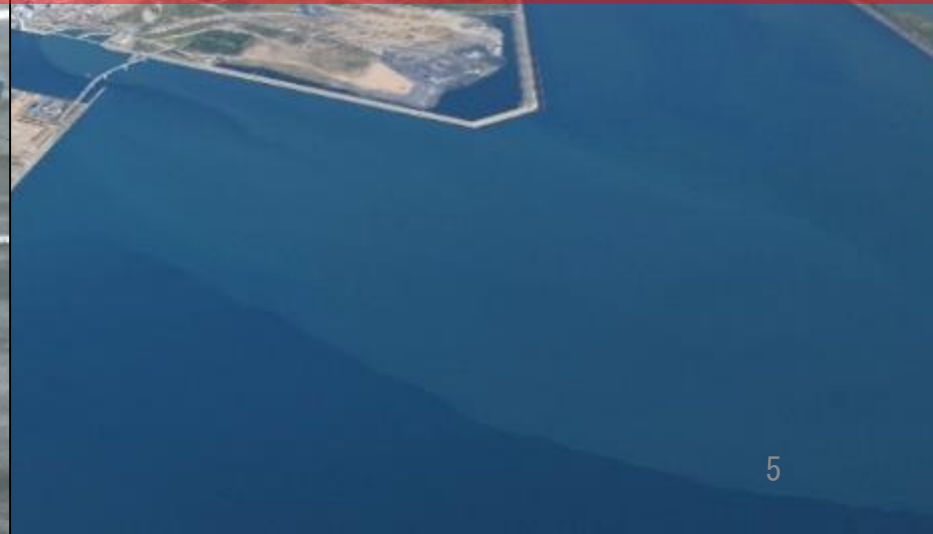
豊橋河川事務所のHPで確認できます。



赤色の地域は、必ず立ち退き避難



高潮被害想定



想定最大 室戸台風級破堤防有

- 5.0~10.0m未満の区域
- 3.0~5.0m未満の区域
- 0.5~3.0m未満の区域
- 0.5m未満の区域

平屋0.5m以上、2階建3m以上の
浸水地域は必ず立ち退き避難

想定最大 室戸台風級破堤防無

- 5.0~10.0m未満の区域
- 3.0~5.0m未満の区域
- 0.5~3.0m未満の区域
- 0.5m未満の区域

浸水深判定
全壊 : 1階天井 (浸水深2.5m)
大規模半壊 : 床上1m (1.5m)
半壊 : 床上 (0.5m)

「マップあいち」で確認できます。

毎年伊勢台風級以上の台風が発生



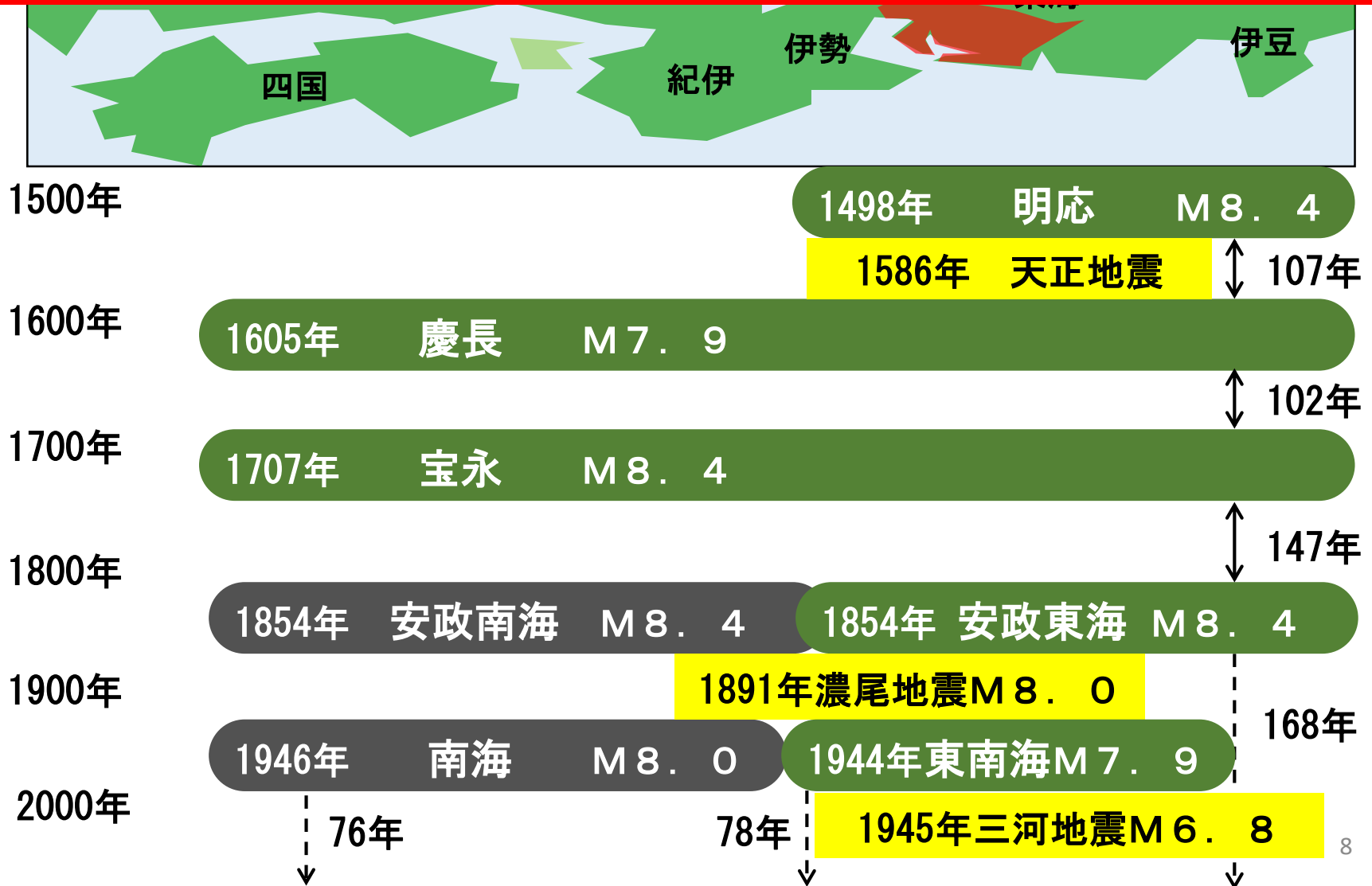


南海トラフ地震被害想定



過去の南海トラフ地震について

今後30年以内の可能性 70～80% (東日本クラス)



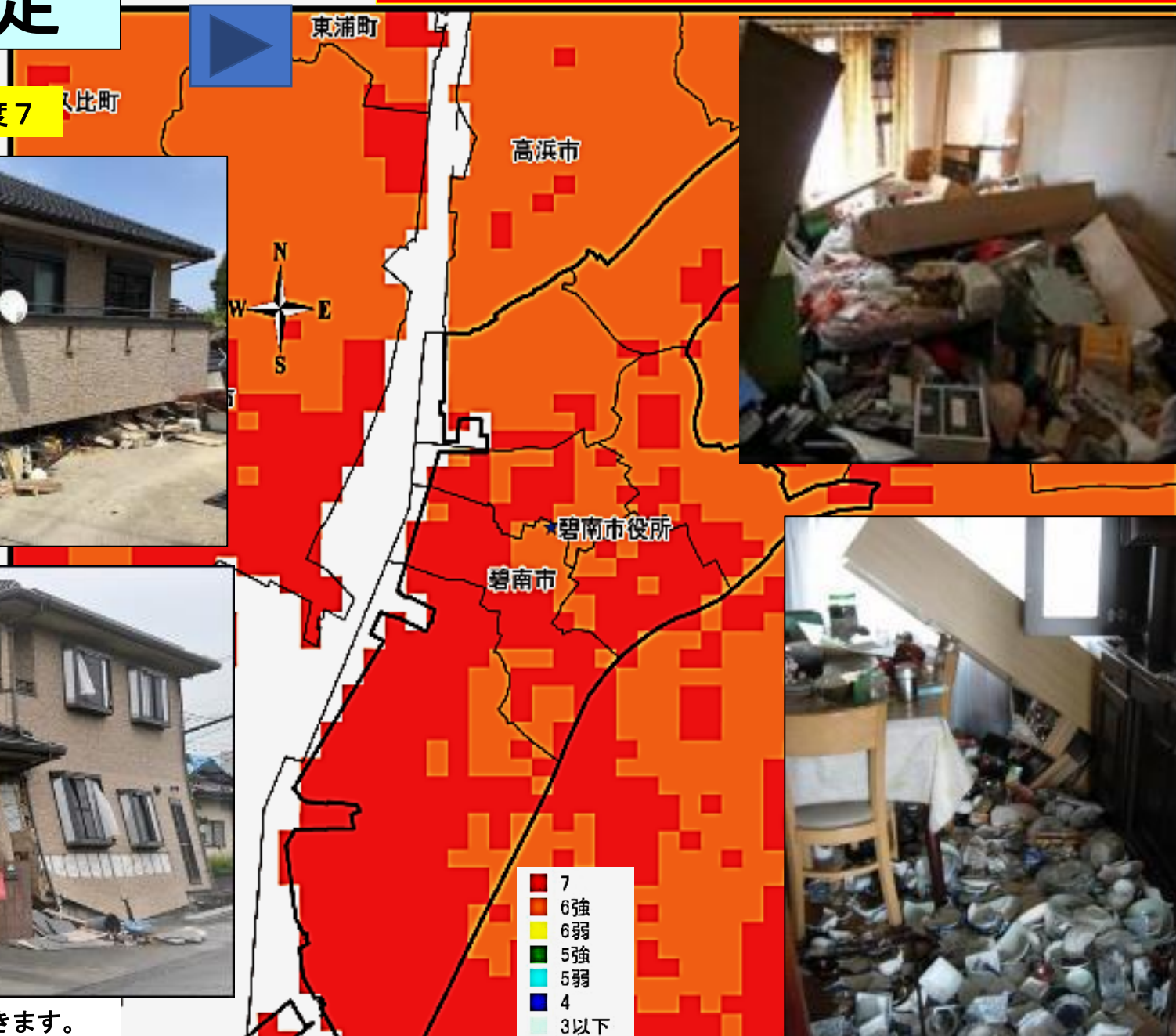
震度想定

震度6強以上：新しい建物も損壊する可能性

沿岸部及び南側：震度7



「碧南市HP」で確認できます。



液状化想定



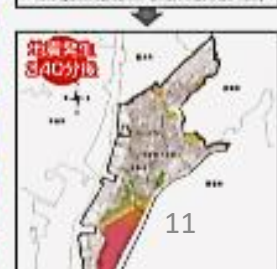
- 極めて高い
- 高い
- 低い
- 極めて低い
- 計算対象層なし
- 計算対象外

「碧南市HP」で確認できます。

液状化により建物、ライフラインが破壊

津波想定

第1波1時間後、1.7mの津波
(地盤沈下80cm、満潮時の津波)



「碧南市HP」で確認できます。

「碧南市HP」で確認できます。

焼失率

- 30%以上
- 20%以上30%未満
- 10%以上20%未満
- 5%以上10%未満
- 2%以上5%未満
- 2%未満

津波が無い地域は火災危険地帯

12



津波が無い地域は火災危険地帯

建物・人的被害想定まとめ

想定	種別		想定数	被害率
理論上 最大	建物	全壊	11,283～14,795	約66.9%
		半壊	5,952～7,359	
	人的	死亡	435～1,139	約1.6%
		負傷	2,475～2,704	約3.7%
過去大 地震	建物	全壊	2,287～4,599	約36.0%
		半壊	6,555～7,220	
	人的	死亡	89～282	約0.4%
		負傷	758～1,170	約1.6%

住めなくなる全半壊は約4～7割、死傷者は約4千人の可能性

避難者・食料・ゴミの想定

想定	種別	想定数
理論上最大	要救助者	1,754～2,424人
過去地震大	要救助者	458～656人
	避難者	最大 23,070人
	帰宅困難者	5,400～5,500人
	飲料水不足	4日以降 4,509トン
	食料不足	4日以降 217,359食
	毛布不足	24,008枚
	災害廃棄物	808,539トン (災害廃棄物処理計画より)
	津波堆積物	261,828トン (災害廃棄物処理計画より)

ライフラインの被害想定

想定	種別	想定（被害率）	復旧見込
過去地震最大	水道	約2,100か所（100%）	約3か月
	下水	約30km（8%）	約2か月
	電力	約100本（89%）	約2週間
	固定電話	約100本（90%）	約1週間
	携帯電話	（83%）	約1週間
	都市ガス	（9%）	約2週間
	LPGガス	約9,500世帯（42%）	約1週間
	道路	車両通行不能多数	不明
	鉄道	不通（線路等の損傷）	約1～2週間

大浜、日進学区の状況



津波襲来時



津波襲来～3日後は水没



排水後は一面瓦礫の山



棚尾、中央、鷺塚、新川、西端学区の状況



地震直後は家屋及びブロック塀が倒壊し、道を塞ぐ



火災発生時



火災後は一面焼け野原

施設・職員等の自宅の状況



新耐震基準の建物も倒壊の可能性



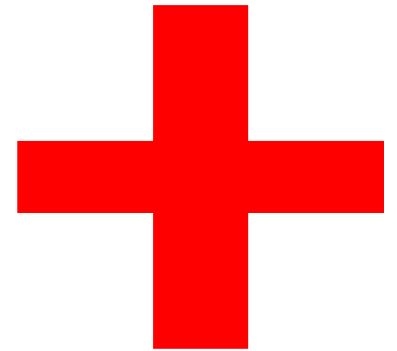
屋内は物が散乱

避難所の様子は？

地震から約 1 週間の避難所は超満員



職員の備え（寝室準備）



枕元に、スリッパ、ホイツスルは必需品

職員の備え（家族の安否、避難先確保）

安否確認の方法を事前に話し合っておくこと。

例えば、

災害時伝言ダイヤル 1 7 1

災害時web伝言板 1 7 1

在宅避難・知人宅等への避難を推奨

職員の備え（持って避難する物）

必ず持って行く物



飲料水9ℓ、食料3日分(アレルギー等を考慮) 普段飲んでいる薬



お金、通帳又は通帳の写



携帯トイレ又は紙オムツ



懐中電灯、ラジオ

ホイッスル



持って行ったほうが良い物



紙の器、コップ



キッチン用ラップ



下着、着替え



運転免許証、保険証の写



携帯電話充電器



ビニールシート



生理用品



ライター・固形燃料



眼鏡、コンタクト(保存液)

持って行けたら良い物



寝袋、毛布、布団



飲料水用タンク



カセットコンロ・ボンベ



調理器具



登山用リュックが最適

避難・出勤経路の検討



道路のひび割れ



道路の液状化



家屋・塀の倒壊、瓦等の散乱



移動服装

登山靴、革手袋、
長ズボン、長袖が
最適

4 m以下の道路は車で通行は不可能！

狭い道路は瓦礫を乗り越えながら避難・出勤

An aerial photograph of a coastal city, likely Osaka, Japan. The city is densely packed with buildings and infrastructure, situated along a large river (the Yodo River) that flows into a bay. The water is a deep blue, and the surrounding land is a mix of urban development and green spaces. The text is overlaid in the center of the image.

**ご質問、ご相談は防災
課まで、お願いします。**